

広がる！まちの縁側5,000か所

住民が気づく

シニア大学や市町村社協が開くボランティア講座などで「みんなが集まって立ち寄れる場があるといいな」という意見が必ずです。住民は、そうした場を求めているし必要を感じている。講座で「まちの縁側」の紹介をすると、「あ！それなら私もできるわ」という意見がです。自ら動こうとする住民と推進する社協やNPO法人などの団体も増えてきました。(戸田)

学びを生かして実現化した事例

シニア大学長野学部で学んだシニア大生が開くまちの縁側は、「スーパーカフェサロン」スーパーの一角でお茶のみをするという画期的な取り組みとして注目！1月に開催したところ大勢の人が立ち寄り場の必要性を実感。3月3日に第2回目が開かれます。

日時 3月3日 11時半～13時

場所 ケーズタウン若里1階

*お茶を飲みながらおしゃべりができるほか、保健師さんによる血圧測定や唾液腺マッサージの指導も受けられます(すべて無料)

平成17年に始まったまちの縁側推進事業は、静かなムーブメントを起こしています。推進から10年がたち、市内にとどまらず長野県内へと広がりを見せています。社会課題が複雑化するなかで、まちの縁側が注目される現状について育みプロジェクトのメンバーで県内を駆け回って仕事をする二人にインタビューしました。



視察の受け入れで話をする小林隊員(左)と戸田隊員(右)

かわらばん

まちえんながの

第28号

3月1日(月)

発行

まちの縁側育みプロジェクトながの



まちの縁側という響き

「まちの縁側という響き」のなかには「居場所」という「空間」を意味するだけでないものが含まれている。人と人のつながり、つなぐもの、つなぐ出来事がある。それが含まれての「まちの縁側」なのです。まちの縁側は、その人の日常生活の延長線上にあります。さもないことでも気持ちが込められているから「まちの縁側」になり、そのことが我がまちの「まち育て」に結び付いているからなのです。いろいろな可能性を感じさせる響きなのです。(小林)

道の縁石に腰掛けるお年寄りの姿を見て「イスがあったら！」と気づいた石川さんが始めた縁側。

日常の中で起きているさもないことの実践です。



お知らせ

まちの縁側講座開催

3月30日(水)

主催：長野市ボランティアセンター
別紙、かわらばんをご覧ください

松代町の元祖縁側「石川さんちのベンチ」を体感！
「玄関にイスをおくことなら私にもできる！」と、視察後に実際に始められた人も少なくありません。

私発の縁側、縁が吾です

- *1月9日に喬木村のみなさんが縁側の視察に来られました。その時の様子が喬木村社協さん発行の「さくみち」に掲載されました！裏面をご覧ください。⇒ ⇒ ⇒
- *育みプロジェクトながのでは、視察の受け入れをしています。ご参考に！